経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

ALPS処理水の処分に関する
安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集　２０２５年３月

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

販促・魅力発信

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

三陸・常磐産品の魅力を発信する取組

- 三陸常磐エリアの豊潤な海の幸を多くの方に知っていただき、味わっていただくための施策として**「ごひいき！三陸常磐キャンペーン」**を2022年10月1日より実施。
- 2025年３月、**コンビニ（セブン-イレブン、ファミリーマート、ローソン）・スーパーマーケット（イトーヨーカドー）・外食チェーン（デニーズ、魚屋路（すかいらーくグループ））**と連携した「**三陸常磐食べようフェア**」を開催。**各店舗において、三陸常磐ものを使用したオリジナル商品を販売**。
- 同年３月４日には記者会見を実施し、竹内政務官をはじめ、キャンペーンアンバサダー（アルコ＆ピース、宇賀なつみ、松井愛莉）、各社商品担当者が登壇し、商品の紹介や試食を通じて三陸・常磐ものをPR。

三陸常磐食べようフェアの様子

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

福島相双復興推進機構の取組事例①

- 3月18～23日の6日間、**千葉市花見川区のイトーヨーカドー幕張店にて、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店。**
- 本イベントでは、**福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者等14社の商品約40品を販売。**また、福島県漁連の「めひかり唐揚げ」「あんこう唐揚げ」や、同漁連の「さんまのポーポー焼き」を用いたつみれ汁などの試食を実施。
- さらに**今回は、「浜のお母さん」（福島県漁連女性部）による店頭販売、子どもが描いた魚の絵をデジタル画面で泳がせる「デジタル水族館」を実施。**
- 開催期間中は多くのお客様にご来場いただいた。また、ご参加いただいた「浜のお母さん」からは「外で触れ合う機会、エンドユーザーと触れ合う機会がないので、とてもよかった。」とのお話をいただいた。

ふくしま常磐大漁市　in イトーヨーカドー幕張店（千葉市）

浜のお母さん

デジタル水族館

■　来場者の声

「（「浜のお母さん」について）やはり本物は違うと感じた。」「お母さん達が話し上手なので、気分を乗せられてついつい買ってしまった。」「（デジタル水族館について）自分の描いたお魚が泳いで可愛かった」「福島がまだ大変なのは知っている。商品を買って応援するしかないと思ってます。」

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

福島相双復興推進機構の取組事例②

- 3月19～23日の5日間、**JR大宮駅の西口イベントスペースで開催された「福島産直市」に、福島相双復興推進機構の主催で、福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」を出店。**
- 本イベントでは、**福島県漁連をはじめとした福島県の水産加工業者等10事業者の商品約30品を販売。**
- 開催期間中は毎日多くの方が来場。同じ大宮駅で開催した昨年9月の「南東北産直市」や会期中のリピーターも多かった。また、メヒカリやさんまのポーポー焼きを調理法を尋ねた上で購入される来場者も多く、福島県の水産物への新たな関心を感じられた。

ふくしま常磐大漁市 in 福島産直市（大宮駅）

会場の様子

■　来場者の声

「昨日メヒカリ開きを買って凄く美味しかったのでまた買いに来た。」（→その他にメヒカリ唐揚げ、アンコウ唐揚げなども一緒にご購入）「先ほど購入されたお客さんへの販売スタッフの説明を聞き、私も気になったから買ってみたい。」（→メヒカリ開き・唐揚げをご購入）「マグロが美味しそう。」「福島を応援したい。」

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日本貿易振興機構（JETRO）の取組事例①

- 中東最大の食品見本市「ガルフード2025」には129カ国5,500社以上が出展。中東をはじめ、アフリカや中央アジアなどの世界各国から多くのバイヤーが来場することから、周辺国も含めた商談が期待できるため、**日本産水産物のさらなる輸出拡大のために、水産物パビリオンを出展し、さらに日本産水産物の調理デモ等のプロモーションを実施**。
- 水産物パビリオン出品者からは、**「来場者数や質、取引希望額など、アジアの展示会にはない活気」、「調理デモで社名を紹介頂いたので、その後の商談に繋がった」と好評価**。
- 日本産水産物のプロモーションでは、調理デモに使用した食材の品質や、それを裏付ける冷凍技術など、生産者・事業者のこだわりを高く評価する声が現地飲食関係者から寄せられた。

中東最大食品見本市「ガルフード2025」での水産物パビリオン出展・調理デモ（UAEドバイ）

■ガルフード水産物パビリオン概要
・開催日：2025年2月17～21日
・会場：ドバイ・ワールド・トレード・センター
・出品者数：９社・団体（茨城県、千葉県含む）
・主な品目：牡蠣、うなぎ、ホタテ、シシャモ、タコ、カニカマ等

■主な評価
・大手ディストリビューターとの商談をすることができた。
・調理デモで社名を紹介頂いたので、その後の商談に繋がった。
・ドバイだけでなく周辺諸国からの引き合いも多数あった。
・来場者の数や質、取引希望の金額等、アジアの展示会には無い活気や、景気の良さを感じた。
・具体的な話ができたと同時に、自社製品（うなぎ）が海外でも通用するという自信にもなった。

様々な国籍のバイヤーで賑わった

■プロモーション概要
・開催日、場所：2025年2月17～3月20日
・会場：ドバイ・ワールド・トレード・センター
・内容：世界的に有名なシェフが調理デモンストレーションや試食を行うイベント「トップテーブル（Top Table）」に参加。地元有名シェフ3名を起用、バイヤーやシェフなど飲食店関係者に向けた調理デモンストレーション・試食と、日本産水産物の魅力を伝えるトークショーを実施。

■参加者の評価
・日本から離れたドバイでも、鮮度が高くて驚いた。特にカキは冷凍輸送だと信じられない。
・冷凍のカキを使用しているとは思えないほど、うまみを感じた。

スペイン料理有名シェフによる調理デモ

日本産食材の使用したスペイン料理
柚子ソースのホタテソテー

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日本貿易振興機構（JETRO）の取組事例②

- 米国・ハワイは、日系人を始めアジア系住民が多く、日本食文化が浸透しており、州外からの観光客（年間約1千万人）も含めて魅力的な市場。**さらなる輸出を増やすべく、現地バイヤーとの商談会と、一層の消費喚起のため、現地レストランでのプロモーション等も同時期に実施。**
- **商談会には、バイヤーとして現地最高級ホテルのエグゼクティブシェフ、全米やハワイ州ではトップランクのシェフ数名も参加。**貴重な機会であり、マーケットの理解に有用な意見を得ることが出来た等、参加した日本企業は好評価。
- **レストランプロモーションは現地著名・人気レストラン15店で展開。**中でも24年10月の招へい事業で青森を訪れ、日本産水産物への理解を深めたシェフは、自身が関わるレストラン4店にて特に熱心にオリジナルメニューを開発、提供。

ハワイにおける商談会・レストランプロモーション（米国・ホノルル）

■ハワイ水産物等商談会概要
・開催日、場所：ホノルル（25年3月7日）
・参加サプライヤー数：16社
・参加レストランオーナー・シェフ数：述べ約80人
・主な商談品目：ベビーホタテ（青森）、ホタテ（北海道）、マグロ（鹿児島）、ブリ等の半調理済商品、かつおぶし等
■参加した日本の輸入・卸売事業者の意見
「自分達では到底会えないエグゼクティブシェフに会うことが出来、引き合いを頂いた。」、「ディストリビューターと小売り両方と一度に成約見込みが出来た。」

ベビーホタテの調理

商談の様子

■レストランプロモーション概要
・開催日、場所：2025年2月28日～3月16日、ホノルル
・協力したレストラン数：15店舗
・内容：各店が独自に開発したオリジナルメニューを提供し、消費者に素材の質や魅力を体験する機会を創出する。
■ハワイのレストラン経営者の意見
「このプロモーションにより、来客数が増えた」、
「質の高い材料でメニュー開発が出来る機会はありがたい」

青森に招へいしたシェフ経営のレストラン

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

東京電力による魅力発信

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ふくしま」の取り組みの一環として、３月14日～16日の2日間、**名古屋市で「旅」をテーマに開催され、国内外の様々な旅情報とともに現地のグルメや特産品などを紹介する大型イベント「トラベルランド」に初めて出店**した。愛知県民を始め、多くの来場者に**メヒカリの唐揚げやホタテの串揚げ等、福島県産品や国産ホタテを召し上がって頂く機会を設け、約1,800食を販売**し、美味しさをPRした。
- また、全国各地の魚介グルメが味わえる「SAKANA&JAPAN FESTIVAL2025」と連携し、「常磐もの」をはじめとした福島県産品のＰＲイベントを開催した。**「発見！ふくしま」としてキッチンカー１台を含む６ブース、北海道・東北の水産品をＰＲする「食べて応援！ニッポンの幸」として３ブース出店し、関西圏における多くの来場者に福島県産品や国内水産品を計約24,000食提供**した。

「トラベルランド」in 名古屋・久屋大通公園

■日程：3月15日（土）10:00～20:00
　　3月16日（日）10:00～17:00

■場所：愛知県名古屋市中区　久屋大通公園

SAKANA&JAPAN FESTIVAL2025 「発見！ふくしまお魚まつり」in 大阪・扇町公園

■日程：3月20日（木・祝）～3月23日（日）10:00～20:00※
　　※23日（日）は、10:00～18:00

■場所：大阪府大阪市北区　扇町公園

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

理解醸成

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

廃炉・ALPS処理水の安全性に係る広報①

■ **ALPS処理水に係るモニタリングの結果**を**一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページ**に**バナー広告を掲載**。

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

Yahoo!JAPAN バナー広告

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

廃炉・ALPS処理水の安全性に係る広報②

■ **「ALPS 処理水について知ってほしい５つのこと」**を**それぞれ１分程度でわかりやすく解説する動画**について**動画広告を展開**。
（動画はそれぞれ画像左下の２次元コードからご覧いただけます。）

１分程度でわかりやすく解説する動画

① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

② トリチウムって何？

③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

FPCJ(公益財団法人フォーリン・プレスセンター) オンライン・プレスブリーフィング

- 3月7日、FPCJ(公益財団法人フォーリン・プレスセンター)の**海外メディア向けプレスブリーフィングがオンライン形式で実施**され、7つの国及び地域(中国、フランス、ドイツ、ロシア、スペイン、米国、台湾)から9名が参加しました。

- 経済産業省及び東京電力ホールディングスより、**東日本大震災による事故から14年を迎える東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の進捗状況やALPS処理水の海洋放出の状況について、海外メディア向けに説明**を行いました。

（説明内容概要）

1. **経済産業省「Progress toward Decommission of the FDNPS」**

- 放射線量の推移、避難指示解除の経緯・現状
- 2025年大阪・関西万博への出展
- 廃炉に向けた取組と「中長期ロードマップ」第３期への移行
- IAEAによる取組(包括報告書、レビューミッション、ILC、追加的モニタリング、グロッシー事務局長の訪日)
- 日本産食品の輸入規制撤廃に向けた働きかけ

2. **東京電力ホールディングス「Update on Decontamination and Decommissioning at Fukushima Daiichi Nuclear Power Station」**

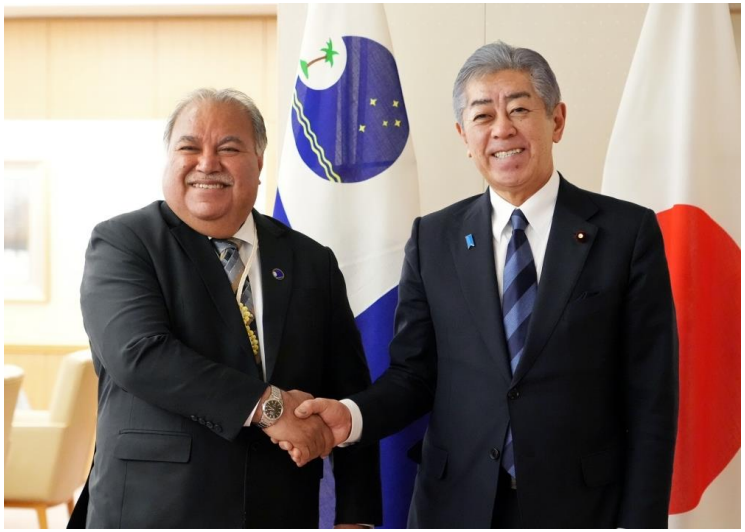
- 廃炉の全体像
- 使用済燃料の取り出しの進捗
- 燃料デブリ取り出し
- ALPS処理水の海洋放出
- 情報発信の取組

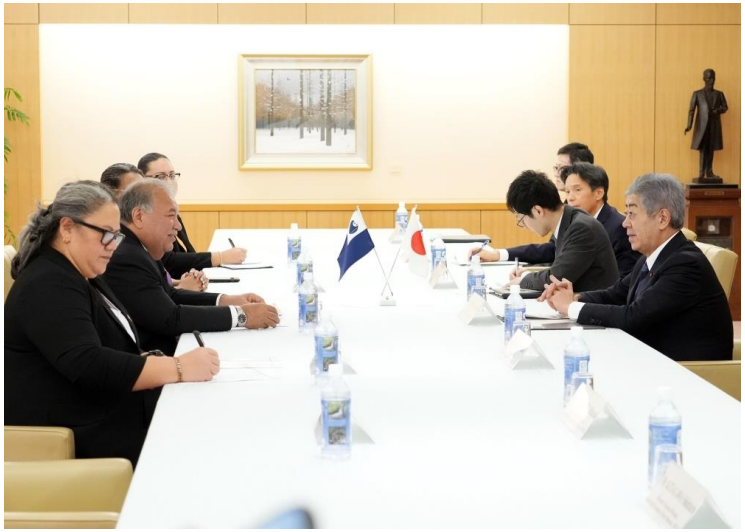
Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

岩屋外務大臣とワンガ太平洋諸島フォーラム（PIF）事務局長との会談

- 3月10日、**岩屋毅外務大臣は、**閣僚級招へいのスキームで**訪日中のバロン・ディバベシ・ワンガ太平洋諸島フォーラム（PIF）事務局長と会談**を行いました。
- ALPS処理水の海洋放出について、**岩屋大臣から、同放出に関しては安全性が確保されている旨説明**するとともに、本年、国際原子力機関（IAEA）を通じて太平洋島嶼国を対象としたモニタリング能力構築支援を実施予定である旨伝達しました。**また、今後も科学的根拠に基づき透明性をもって対応し、安心感を高めていく旨説明**しました。これに対し、**ワンガ事務局長から、こうした日本の取組への理解が示され**ました。

（参考）【外務省】 岩屋外務大臣とワンガ太平洋諸島フォーラム（PIF）事務局長との会談
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01867.html





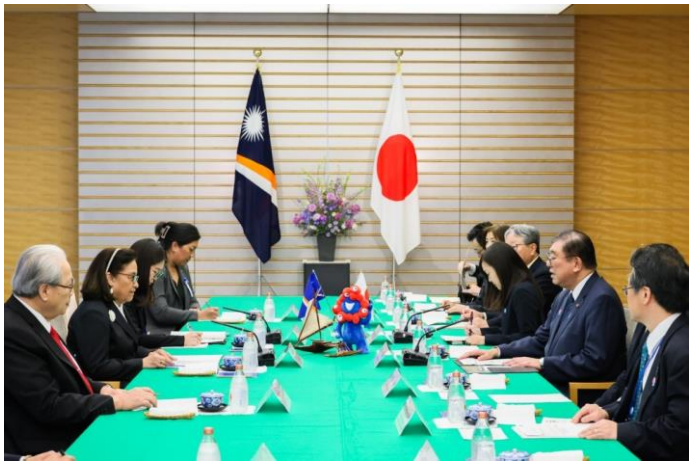
▲岩屋大臣とワンガ事務局長の会談（外務省ウェブサイトより）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日・マーシャル諸島首脳会談

- 3月13日、**石破茂内閣総理大臣は、**訪日中の**ヒルダ・C・ハイネ・マーシャル諸島共和国大統領と首脳会談**を行いました。
- **ALPS処理水の海洋放出に関し、石破総理大臣から、安全性が確認されている旨説明**するとともに、IAEAを通じたモニタリング能力構築支援を実施予定であり、**日本として、引き続き、科学的根拠に基づき透明性をもって対応し、安心を高めていく旨述べました**。

（参考）
【首相官邸】 日・マーシャル諸島首脳会談
https://www.kantei.go.jp/jp/103/actions/202503/13marshall.html
【外務省】 日・マーシャル諸島首脳会談
https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/ocn/mh/pageit_000001_01697.html



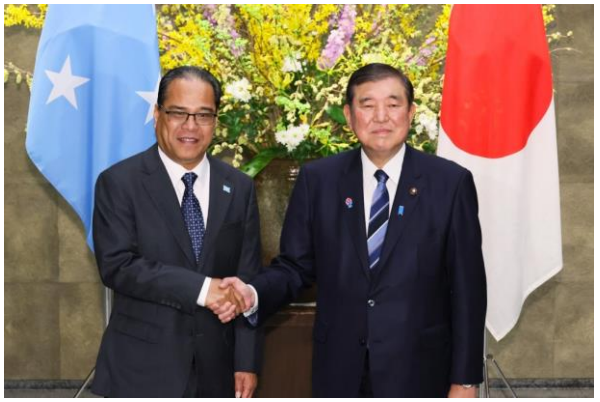
▲石破総理とハイネ大統領の会談（首相官邸ウェブサイトより）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日・ミクロネシア連邦首脳ワーキング・ディナー

- 3月18日、**石破茂内閣総理大臣は、**実務訪問賓客として**訪日中のウェズリー・W・シミナ・ミクロネシア連邦大統領と首脳ワーキング・ディナー**を行いました。
- **石破総理大臣から、ALPS処理水の放出に関して、シミナ大統領からの日本の対応への一貫した信頼に心からの謝意を表明**するとともに、**日本として、引き続き科学的根拠に基づき透明性をもって対応し、安心を高めていく旨述べました。**
- **シミナ大統領からは、**今般の訪日における**東京電力福島第一原子力発電所の訪問を通じて、自らの目で現場を確認することでALPS処理水の海洋放出の安全性について更に理解を深めた旨、科学的根拠に基づきIAEAとともに行われている日本の透明性のある取組を歓迎**する旨発言がありました。

（参考）
【首相官邸】 日・ミクロネシア首脳会談等
https://www.kantei.go.jp/jp/103/actions/202503/18micronesia.html
【外務省】 日・ミクロネシア連邦首脳ワーキング・ディナー
https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/ocn/fm/pageit_000001_01726.html
【東京電力】 ウェズリー・W・シミナ　ミクロネシア連邦大統領が福島第一原子力発電所をご視察
https://photo.tepco.co.jp/date/2025/202503-j/250318-01j.html



▲石破総理とシミナ大統領の会談（首相官邸ウェブサイトより）

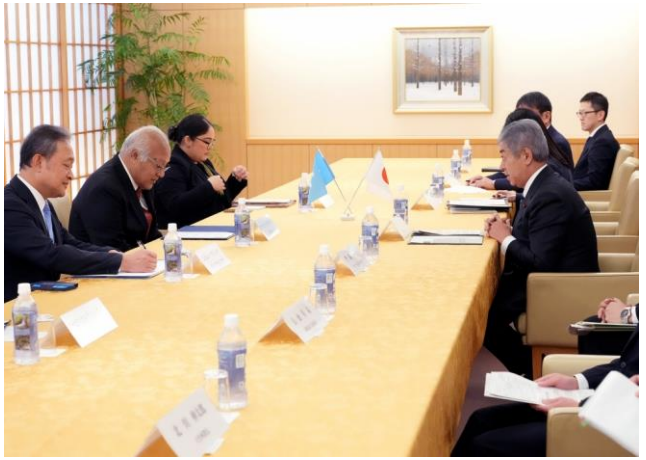
▲シミナ大統領の東京電力福島第一原子力発電所の視察（東京電力ウェブサイトより）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日・ミクロネシア外相会談

- 3月18日、**岩屋毅外務大臣は、**訪日中の**ローリン・S・ロバート・ミクロネシア連邦外務大臣と外相会談**を行いました。
- **ALPS処理水の海洋放出**について、**岩屋大臣から、17日のシミナ・ミクロネシア連邦大統領一行の東京電力福島第一原子力発電所視察に謝意**を表すとともに、**引き続き科学的根拠に基づき透明性をもって対応し、安心感を高めていく旨述べました。**これに対し、**ロバート外相からは、こうした日本の取組を評価しており、自ら現場で経験したことを他の太平洋島嶼国にも伝えたい旨発言**がありました。

（参考）
【外務省】 日・ミクロネシア外相会談
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01914.html



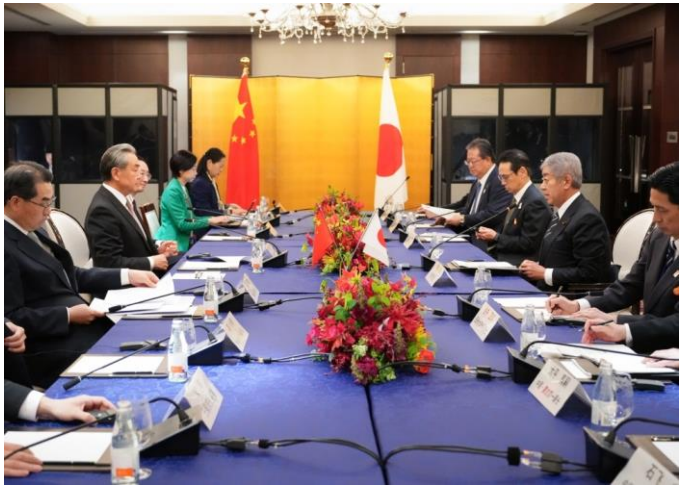
▲日・ミクロネシア外相会談（外務省ウェブサイトより）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

日中外相会談

- 3月22日、**岩屋毅外務大臣は、日中韓外相会議出席のため訪日中の王毅（おう・き）外交部長と日中外相会談を行いました**。
- 両外相は、外相会談に続いて行われる6年ぶりとなる日中ハイレベル経済対話において、両国民が利益を実感できるような経済分野の案件について議論を深めることで一致しました。**岩屋大臣から、日本産水産物の輸入規制の撤廃を早期に実現するよう求めました**。

（参考）
【外務省】 日中外相会談
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01930.html



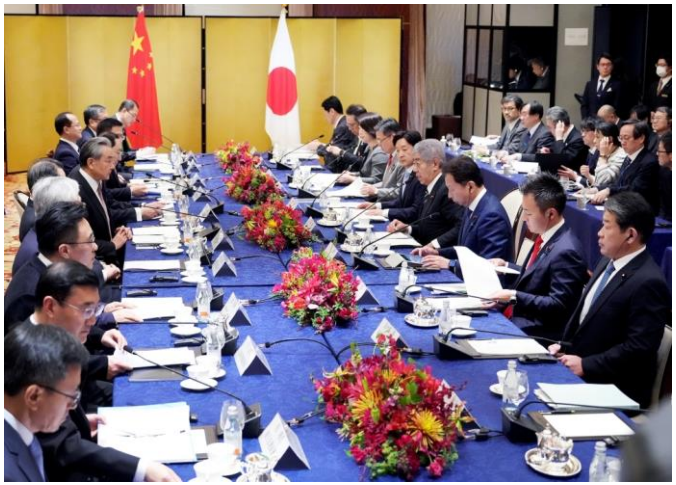
▲日中外相会談（外務省ウェブサイトより）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

第６回日中ハイレベル経済対話の開催

- 3月22日、**東京において、第6回日中ハイレベル経済対話が開催**されました。今次対話は、2019年4月以来、**約6年ぶりの開催**であり、**日本側は岩屋毅外務大臣、中国側は王毅（おう・き）中国共産党中央政治局委員・外交部長が議長**を務めました。
- 冒頭、**岩屋外務大臣から**、日中経済関係の重要性に言及の上、経済分野での実務協力の推進には両国民の理解が不可欠であり、駐在員やその家族の安心・安全の確保が大前提となる、また、**日本産農水産物の輸入規制の撤廃も極めて重要であり、今次対話を課題と懸案を減らし、協力と連携を深めていく機会としたい旨述べました**。
- **日本産水産物の輸入規制について、双方は、昨年9月に発表した「日中間の共有された認識」が着実に履行されていることを共に評価**し、**日本側から、日本産水産物の輸入を近く再開するよう求めました。双方は、IAEAの枠組みの下で追加的モニタリングを引き続き実施していくことを確認**し、**分析結果に異常がないことを前提に、日本産水産物の輸入再開に向けて、関連の協議を推進していくことで一致**しました。

（参考）【外務省】 第６回日中ハイレベル経済対話の開催（概要）
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01933.html



▲第６回日中ハイレベル経済対話（外務省ウェブサイトより）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

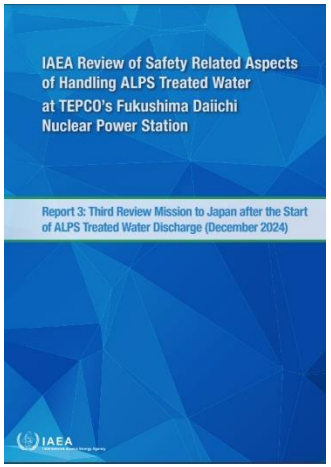
IAEAによるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー（海洋放出開始後第３回）について報告書の公表

- 2024年12月9日から12日にかけて、IAEAの職員及び国際専門家（アルゼンチン共和国、英国、カナダ、大韓民国、中華人民共和国、フランス共和国、アメリカ合衆国、ベトナム社会主義共和国、ロシア連邦出身）が日本を訪れ、**ALPS処理水の海洋放出開始後3回目となる安全性レビューミッション**を実施しました。
- 2025年3月24日（オーストリア・ウィーン現地時間）、**IAEA（国際原子力機関）は、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の安全性レビュー（海洋放出開始後第３回）に関する報告書を公表しました**。

- IAEAの結論は全体として、海洋放出開始後の**第1回及び第2回のレビューミッションの結論と一致**しており、主な評価結果は以下のとおり。
  - タスクフォースにより**関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった**。
  - 原子力規制委員会が、ALPS処理水の放出に関する安全管理について、**現地での立会いを含む包括的な検査計画を継続していることを強調**した。
  - **機器及び設備が実施計画及び関連する国際安全基準に合致した方法で設置され、運用されていることを確認**した。
  - 東京電力と日本政府から報告されたデータの正確性と信頼性について、包括的で透明性のある独立した検証を行う上で、**IAEAの継続的な裏付け活動とオンサイトでの独立したテストと分析が重要であることを指摘**した。
- タスクフォースは、東京電力と原子力規制委員会の活動が関連する国際安全基準に合致しているかどうかを評価するため、**引き続きレビューを行う**。タスクフォースは、**次回は、ALPS処理水のモニタリングプログラムとその結果に重点を置いたレビューミッションを2025年前半に行う**ことを提案しました。

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

IAEAによるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー（海洋放出開始後第３回）について報告書の公表　関係URL



【経済産業省】
IAEAは海洋放出開始後3回目となるALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビューミッションについての報告書を公表しました
https://www.meti.go.jp/press/2024/03/20250325003/20250325003.html

【IAEA】
Latest IAEA Reports Confirm Japan's ALPS Treated Water Release Continues to Meet International Safety Standards
https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/latest-iaea-reports-confirm-japans-alps-treated-water-release-continues-to-meet-international-safety-standards

ALPS処理水の海洋放出に関する安全性レビュー（海洋放出開始後第3回）についての報告書（上写真）は以下IAEAのウェブサイト参照
【IAEA】
IAEA Review of Safety Related Aspects of Handling ALPS Treated Water at TEPCO’s Fukushima Daiichi Nuclear Power Station - Report 3: Third Review Mission to Japan after the Start of ALPS Treated Water Discharge (December 2024)
https://www.iaea.org/sites/default/files/25/03/third-alps-task-force-mission-report-after-the-start-of-the-discharge-200325.pdf

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

IAEAによるALPS処理水の放射性核種分析における分析機関間比較（第３回）に関する報告書の公表

- 2024年6月にIAEA立ち会いの下で測定・確認用タンク（ALPS処理水を受け入れ、ALPS処理水の希釈・放出前の分析に当たって代表的な分析試料を採取するための循環・攪拌を行うタンク）から採取された**ALPS処理水について、IAEAの研究所及びIAEAにより選定された第三国の分析機関により放射性核種分析を実施しました**。

  （参加した分析機関）

  【IAEA】
  - 海洋環境研究所 放射能測定研究室（モナコ所在）
  - 陸域環境放射化学研究所（オーストリア所在）
  - アイソトープハイドロジー研究所（オーストリア所在）

  【第三国分析機関】
  - 中国放射線防護研究院（CIRP・中国）
  - ロスアラモス国立研究所（LANL・米国）
  - 韓国原子力安全技術院（KINS・韓国）
  - シュピーツ研究所（SPIEZ・スイス）

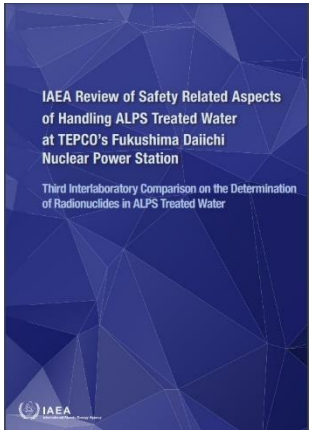
- 2025年3月24日（オーストリア・ウィーン現地時間）、**IAEA（国際原子力機関）は、「ALPS処理水の放射性核種分析における第3回分析機関間比較」に関する報告書を公表しました**。

- 分析機関間比較における主な結果は以下のとおり。
  - 東京電力は**高い技術的能力を実証する、正確な結果を報告**した。
  - 東京電力のサンプル採取手順は、代表的なサンプルを得るために必要で適切な方法論的基準に従っている。
  - 東京電力が採用した様々な核種に対する**分析方法は、適切で目的にかなったもの**であり、ALPS処理水に含まれる可能性があると東京電力が想定する全ての核種について、報告された検出限界値は各々の規制基準の1%未満であった。

- 報告書では、上記の結果は、**東京電力が信頼できる、質の高いALPS処理水のモニタリングを実施する能力を有していることを確信させるものである**こと、**IAEAによる観察に基づき、東京電力が、ALPS処理水の放出中における東京電力福島第一原子力発電所での現在の技術的ニーズを支えるための持続可能で堅固な分析システムを構築していることを実証した旨、結論づけ**られています。

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

IAEAによるALPS処理水の放射性核種分析における分析機関間比較（第３回）に関する報告書の公表　関係URL



【経済産業省】
　IAEAによる「ALPS処理水の放射性核種分析における第3回分析機関間比較」に関する報告書が公表されました
　https://www.meti.go.jp/press/2024/03/20250325002/20250325002.html

【IAEA】
　Latest IAEA Reports Confirm Japan's ALPS Treated Water Release Continues to Meet International Safety Standards
　https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/latest-iaea-reports-confirm-japans-alps-treated-water-release-continues-to-meet-international-safety-standards

ALPS処理水の放射性核種分析における分析機関間比較（第３回）についての報告書（上写真）は以下IAEAのウェブサイト参照
【IAEA】
　IAEA Review of Safety Related Aspects of Handling ALPS Treated Water at TEPCO’s Fukushima Daiichi Nuclear Power Station - Third Interlaboratory Comparison on the Determination of Radionuclides in ALPS Treated Water
　https://www.iaea.org/sites/default/files/25/03/third-interlaboratory-comparison-on-the-determination-of-radionuclides-in-alps-treated-water-200325.pdf

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

IAEAによる海洋環境中の放射性核種分析における分析機関間比較（第２回）に関する報告書の公表

- 2025年3月24日（オーストリア・ウィーン現地時間）、国際原子力機関（IAEA）は、**海洋環境中の放射性核種分析における分析機関間比較（Interlaboratory Comparison（ILC））の結果に関する報告書を公表**しました。
- 2023年10月に採取した試料に対して、**日本の分析機関、IAEAの研究所及びIAEAに選定されたカナダ、韓国、中国の分析機関が実施した分析の結果比較をIAEAが行い、その結果が報告書として公表**されたもの。
- 公表された報告書において、**IAEAは、日本の分析機関の試料採取方法は代表的な試料を採取するために必要な、適切な方法論的基準に従っており、**かつ、**ILCで得られた正確な分析結果から、環境モニタリングの海洋サンプルに含まれる放射性核種の分析に参加した日本の分析機関が、高い熟練度を有している旨報告**しています。

（参考）

【原子力規制庁】 国際原子力機関(IAEA)による「海洋環境中の放射性核種分析における第２回目の分析機関間比較結果」に関する報告書の公表
https://www.nra.go.jp/data/000475690.pdf

【環境省】 国際原子力機関（IAEA）と共同で実施したALPS処理水に係る分析機関間比較の報告書の公表について
https://www.env.go.jp/press/press_04684.html

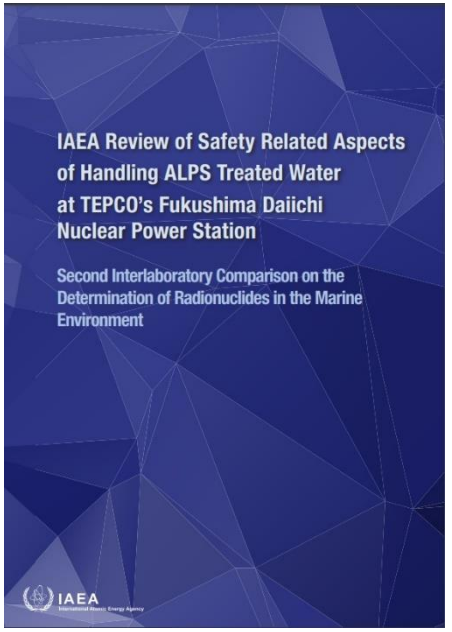
【水産庁】 国際原子力機関(IAEA)によるALPS処理水に係る海洋モニタリングに関する報告書の公表
https://www.jfa.maff.go.jp/j/press/kenkyu/250325.html

【外務省】 海洋環境中の放射性核種分析におけるIAEAの分析機関間比較結果の公表
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01940.html

【IAEA】 Latest IAEA Reports Confirm Japan's ALPS Treated Water Release Continues to Meet International Safety Standards
https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/latest-iaea-reports-confirm-japans-alps-treated-water-release-continues-to-meet-international-safety-standards

海洋環境中の放射性核種分析における分析機関間比較（第２回）に関する報告書（右写真）は以下IAEAのウェブサイト参照

【IAEA】 IAEA Review of Safety Related Aspects of Handling ALPS Treated Water at TEPCO's Fukushima Daiichi Nuclear Power Station - Second Interlaboratory Comparison on the Determination of Radionuclides in the Marine Environment -
https://www.iaea.org/sites/default/files/25/03/second-interlaboratory-comparison-on-the-determination-of-radionuclides-in-the-marine-environment-200325.pdf



Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

IAEAによる作業員の内部被ばくに関するモニタリングの裏付けに関する報告書の公表

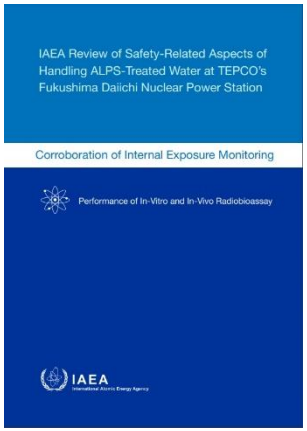
- 3月24日（オーストリア・ウィーン現地時間）、IAEA（国際原子力機関）は、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の安全性に関するレビューの一環として、**職業的な放射線防護の能力の裏付けのための「内部被ばくに関するモニタリングの裏付け：試験管内分析及び生体内測定による放射能のバイオアッセイ（生物学的試験）の実施」に関する報告書を公表**しました。
- 本分析機関間比較では、**IAEAの研究所及び東京電力を含む参加分析機関が内部被ばく線量を評価するためのバイオアッセイを行い、分析値の比較により、測定の正確性を評価し、結果としてまとめています。**バイオアッセイでは、具体的には、（1）試験管内分析（間接的モニタリング、本試験のために放射性核種を添加した尿のサンプルを分析し、放射能の濃度を測定）と、（2）生体内測定（直接的モニタリング、放射性核種を埋め込んだ人型の模型をホールボディ・カウンタにより検査し、模型中の放射能の総量を測定）の2種類の方法を実施しています。

  （参加した分析機関）
  - フランス原子力・代替エネルギー庁（サクレ研究所、ヴァルドック研究所）　※（1）試験管内分析（間接的モニタリング・尿のサンプル分析）のみ参加。
  - IAEA放射線安全技術支援研究所
  - 東京電力

- 分析機関間比較の主な結果は、以下のとおり。
  - **東京電力は自身の測定精度と技術力の高さを実証**した。
  - **分析手順は、技術的に有効な結果を得るために必要で適切な基準に従っている。**
- 報告書では、上記の結果は、**作業員の体内への放射性核種の取り込みに起因する排泄物及び人体中の放射能を正確に測定する能力を東京電力が有していると結論づけ**られています。

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

IAEAによる作業員の内部被ばくに関するモニタリングの裏付けに関する報告書の公表　関係URL



【経済産業省】
　IAEAは、ALPS処理水の安全性に関するレビューの一環として、作業員の「内部被ばくに関するモニタリングの裏付け」に関する報告書を公表しました
　https://www.meti.go.jp/press/2024/03/20250325001/20250325001.html

【IAEA】
　Latest IAEA Reports Confirm Japan's ALPS Treated Water Release Continues to Meet International Safety Standards
　https://www.iaea.org/newscenter/pressreleases/latest-iaea-reports-confirm-japans-alps-treated-water-release-continues-to-meet-international-safety-standards

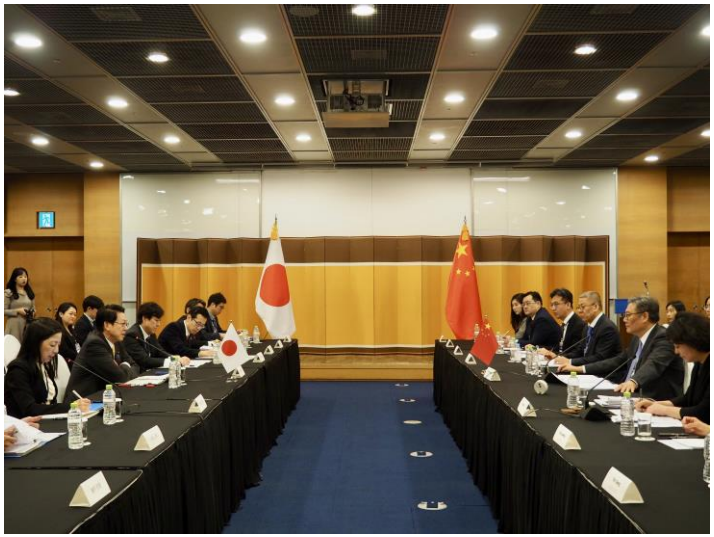
作業員の内部被ばくに関するモニタリングの裏付けに関する報告書（上写真）は以下IAEAのウェブサイト参照
【IAEA】
　IAEA Review of Safety-Related Aspects of Handling ALPS-Treated Water at TEPCO’s Fukushima Daiichi Nuclear Power Station　- Corroboration of Internal Exposure Monitoring: Performance of In-Vitro and In-Vivo Radiobioassay
　https://www.iaea.org/sites/default/files/25/03/corroboration-of-internal-exposure-monitoring-200325.pdf

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

武藤経済産業大臣と王文濤商務部長との会談

- **武藤経済産業大臣**は、大韓民国・ソウルに出張し、3月30日に開催された日中韓経済貿易大臣会合に出席しました。さらに、**中華人民共和国 王文濤（オウ・ブントウ）商務部長との間で会談を行い、両国間の経済関係強化に向け、意見交換**を行いました。
- **武藤経済産業大臣から、ALPS処理水の海洋放出と日本産水産物の輸入規制に関する両政府の発表が着実に履行されていることを評価**し、**日本産水産物の輸入回復の早期実現**を求めました。

（参考）
【外務省】 武藤経済産業大臣が大韓民国に出張しました
https://www.meti.go.jp/press/2024/03/20250330001/20250330001.html



▲武藤経済産業大臣と王文濤商務部長との会談（当省ウェブサイトより）

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

安全確保

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

海水・魚のトリチウムの迅速なモニタリング

東京電力

○**海水中トリチウムを測定**

○放水口周辺４地点毎日、その他６地点で週２回（放出期間中）、放水口周辺４地点週１回、その他６地点で月１回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○**水産物は年約380検体でトリチウムを測定**

○①放水口の北北東へ約４km、②放水口の南南東へ約５kmの**２地点で、週４回迅速分析を実施**（放出のない期間は週１回）

環境省

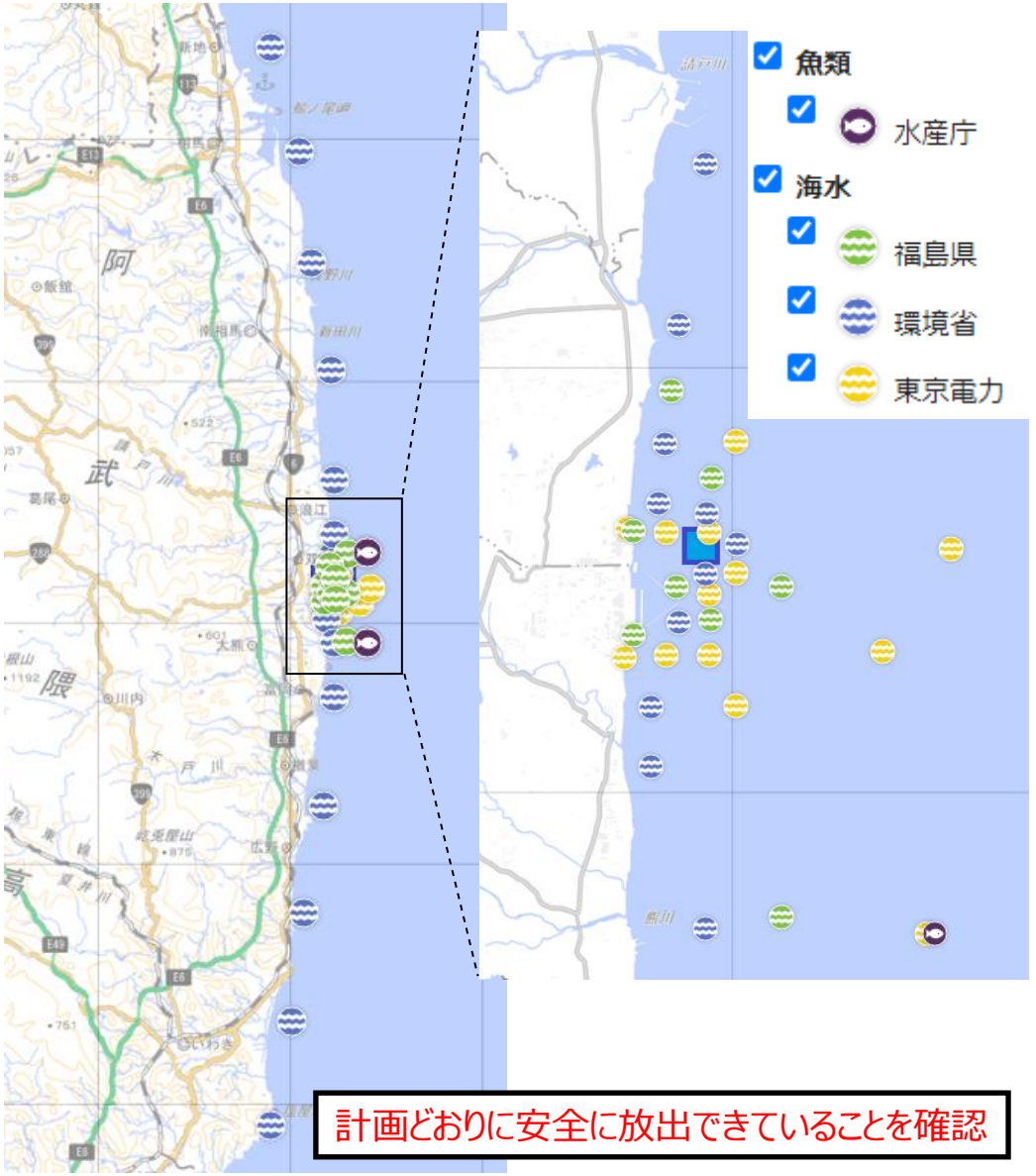
○**海水中トリチウムを測定**

○放出期間中、放水口近傍３地点で期間中２回、その他沿岸20地点で期間中１回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○**海水中トリチウムを精密分析にて測定**。

○20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

東京電力による新聞広告掲載

- 一昨年８月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載**。
- 本年3月は2回掲載しており、今後も**月１～２回の頻度で継続的に実施を予定**。

新聞への広告掲載内容(左上:モニタリング状況のお知らせ、右下:J9エリアのタンク解体について)

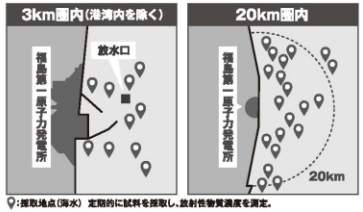
広告

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2025年3月）

TEPCO

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

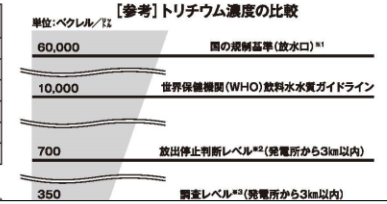
海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル／ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。



▽：採取地点（海水） 定期的に試料を採取し、放射性物質濃度を測定。

	エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル／ℓ】（2025年2月1日～2月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム［迅速測定※1］	3km圏内	検出せず（<8.1）
	20km圏内	検出せず（<8.0）
セシウム134※2	3km圏内	検出せず（<0.98）
	20km圏内	検出せず（<0.0014）
セシウム137※2	3km圏内	検出せず（<0.97）
	20km圏内	0.019

「<」の右側の数値は検出下限値。検出下限値を下回った場合は、検出せずと記載
※1：トリチウムの検出下限値を1リットルあたり10ベクレル程度とし、測定時間を短縮して迅速に結果を得る測定
※2：福島県周辺海域における過去の変動範囲は、セシウム134：0.000051ベクレル／ℓ～0.028ベクレル／ℓ、セシウム137：0.00028ベクレル／ℓ～0.45ベクレル／ℓ（出典）日本



海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度に、**有意な変動は確認されていません。**

詳細は当社ホームページをご覧ください。
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/monitoring/

包括的海域モニタリング開覧

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員会、福島県、および水産物の放射性物質濃度も**有意な変動は確認**

詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるORBSを

https://www.monitororbs.jp/

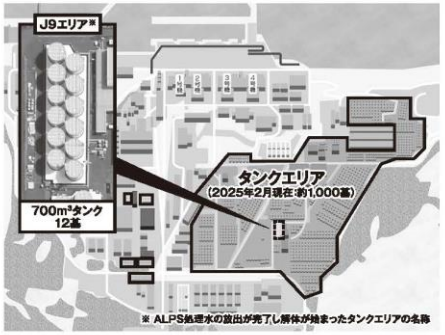
東京電力ホールディングス株式会社　福島第一廃炉推進カン

広告

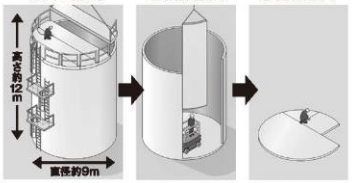
福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.44

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

2025年2月14日から、ALPS処理水の海洋放出によって空となったタンク（溶接型）の解体作業を開始しています。



タンク解体作業の手順について



- タンクの解体は、①天蓋→②側板→③底板の順に行います。
- タンクはガスを用いて切断し、切断したタンク片はクレーンでタンク脇に移動させます。
- 解体したタンク片（天蓋、側板、底板等）は、コンテナに収納し、構内の一時保管エリアで保管します。

Q.解体したタンクはどうなるの？

▶解体したタンク片はコンテナに収納し、福島第一原子力発電所構内の一時保管エリアで保管します。
J9エリアの解体作業は、2025年度末頃まで行う予定です。

Q.タンクを解体した後、空いた敷地は？

▶廃炉作業に必要な関連施設を新たに建設する予定です。
（J9エリアはテニスコート約6面分の広さがあります）

Q.タンク解体時の安全対策は？

▶タンク解体に先立ち実施した事前調査では、J9エリアの全てのタンク内の線量が十分に低い値であることを確認しています。
また、タンク解体作業中も、作業場所にはモニタリング装置を追加して設置し、周辺環境へ影響を与えないよう、安全最優先で作業を進めています。
なお、モニタリングで異常が発生した場合、作業を中断し、散水や集塵の強化などを行い、通常時に戻ったことを確認してから作業を行います。

J9エリアタンク解体作業の詳細動画はこちらをご覧ください
▶【解説動画：J9エリアタンク解体作業について】
https://youtu.be/b-EsZ171gLM

ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶【処理水ポータルサイト】
https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/

福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶【皆さまのご意見をお聞かせください】
https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html

TEPCO 東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.